

29年春期かじきまぐる延縄漁業の 操業成果について

本果に於ける遠洋漁業の主体は枕崎港を主根拠とするカツオ釣と串木野港を主根拠とする、かじき、まぐる延縄漁業である。近年沖合より遠洋へと業者の進出目覚しく殊にかじき、まぐる延縄船も従来の40屯級中心が60屯級中心となり現存で94隻を数ふるに到ったがこの操業も漸次遠洋になり従来春期操業の唯一の漁場であった台湾北方の魚釣島近海に於けるかじき漁を目的の操業から転換し昨年頃より焼津、清水、勝浦港を根拠とする小笠原列島東部のマケ口漁に出漁船が見受けられ本年は概そ方の船(50~60屯級)が1月~4月迄の4ヶ月間この方面に出漁し可成りの成績を収めて帰港している。一方50屯級以下を主体としてかじきの好漁を期待した、業者は旧慣を守って魚釣島方面に出漁したがこの成果は一部の船を除き予期した程なく来年度の操業指針として両漁場の価値が検討されるに到った。従って比処に当業者の協力を得て資料の提供をあいだ4隻の船の操業成果より両漁場を比較した。

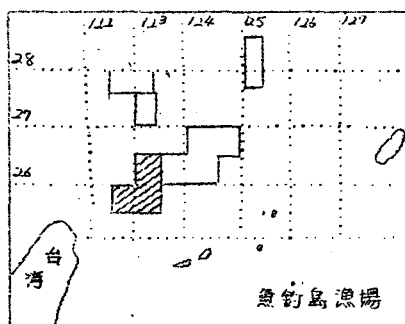
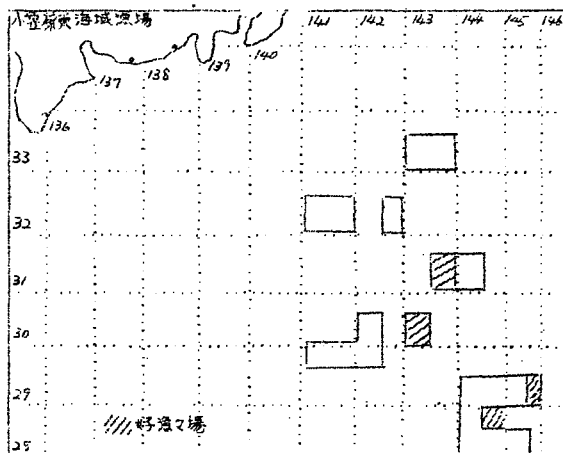
(1) 漁場について

① 漁場位置

小笠原東海域は焼津、清水、勝浦を根拠とし漁場圏の示す位置へ出漁しており魚釣島近海へ出漁する串木野船と航程に於いて魚釣島近海迄の距離は約510哩、時速6哩の船で3日と1/2時間であるが一方小笠原東海域は約540哩で3日と1/8時間を所要する、これは殆んど同程とみて差支ない。更に小笠原東海域で近い好漁場は390哩と更に短縮され魚釣島近海より恵まれていると云える。

② 漁獲物組成と釣獲率

詳細な資料は魚釣島近海については毎月の指導所だよりに発表しており小笠原東海域は未だ全船漁況が揃はぬので資料の提供を頼った中から同業者で両漁場に出漁させた2組AとA'、BとB'について比較して見た。



漁獲物組成 (尾数による百分比)

		マグロ	ビンテウ	キハダ	メバチ	マガジキ	メカジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハセウカジキ	サメ
小笠原	尾数		2946	35	103	22	24	1			99
	%		91.2%	1.17	3.2	0.68	0.74	0.00			3.1
魚釣	尾数			1		11		41	79	70	321
	%			0.2%		2.1		7.8	15.0	13.4	61.5

A, B は小笠原東海域、A', B' は魚釣島近海

操業当りの魚種別漁獲率(尾)

船名	マグロ	ビンテウ	メバチ	キハダ	マガジキ	メカジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハセウカジキ	サメ
A	0.02	68.1	2.1	0.5	0.17	0.5	0.17			2.76
B		50.1	2.06	8.9	7.45	0.45				3.26
B'				0.02	0.35		1.27	1.89	1.71	8.27
A'				0.02	0.1		0.5	1.6	1.3	5.7

釣数100本に対する釣獲率

船名	マグロ	ビンテウ	メバチ	キハダ	マガジキ	メカジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハセウカジキ	サメ
A	0.00	3.64	0.16	0.04	0.01	0.04	0.00			0.30
B		3.50	0.14	0.06	0.06	0.03	—			0.22
A'				0.01	0.03		0.12	0.38	0.33	1.40
B'				0.01	0.09		0.32	0.46	0.43	2.07

(2) 経営について

漁場価値の検討には主として漁獲高とこれに要する経費、収益が必要となる。

④ 水揚港に於ける魚価

小笠原東海域は水揚港が清水、焼津、勝浦となつており魚釣島近海は串本野、鹿兒島であり、漁獲物組成から前者は主としてマグロ類であり后者はカジキ類となるのでこれより魚価を全般的に比較出来ないが概念的に何れが有利か判ると思う。即ちマグロ類は串本野より清水、焼津、勝浦方面が3~7割高値となつて居るがカジキ類では大差なく、むしろ串本野が高値を示している。これは時期的に又鮮度の点で地元水揚が有利になるのではないかと考えられる。

水揚地	マグロ	ビンテウ	メバチ	キハダ	マガジキ	メカジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハセウカジキ
勝浦		50~60	24~124	45~128		12~64			
焼津	300~350		30~150	40~135	45~100	16~77			
清水		50~64	25~130	38~93	30~75	50~65			
串本野	100~175	35~60	25~70	45~70	60~102	25~76	40~87	57~105	46~94

⑤ 水揚高について

各漁場に出漁した前記漁船を比較してみた、A船は当地船中級「中」の部に属し、B船は途中に於いて事故があり成績が悪いようであるが実際操業は4航海分に匹敵す

漁場	船	航海	区	IP	操業期間	漁獲 × 枚		水揚金 額	
						1航海当	総計	1航海当	総計
小笠原	A	3	61.4	150	1.31~4.20	2,747.1	8,247.3	15,883.40 ^円	4,765.02 ^円
	B	5	50.9	100	1.10~4.20	1,961.4	9,807.3	12,605.49	6,302.749
魚釣島	A'	4	60.4	150	1.14~4.24	1,700	6,801.7	5,842.04	2,336.818
	B'	4	53.7	100	1.16~4.23	2,399	9,595	10,533.98	4,213.585

す。B'船は魚釣島近海出漁船中上位に入るものであり、A'船は中の下の部に属する。これを以つても漁獲努力に対する成果はA、B船に比較しても到底及ばぬことが判明する。

② 経費について

(1) 大仲経費

船	手数料	氷	燃料油	餌料	主食	副食	研炭	消耗品	通信	雑費	
A	総計	172,169	134,920	542,105	298,260	16,920	177,825		77,696	5,400	計1477,107 1,810
	一航平均	54,389	44,778	181,035	99,420	22,307	59,275		25,898	1,800	603
	百分率	11.7%	9%	36.4%	21.0%	4.5%	11.9%		5.2%	0.3%	%
B	総計	238,527	128,240	428,799	245,300	118,030					計1212,716 60,850
	一航平均	47,705	25,648	85,759	49,060	23,606					12,170
	百分率	19.5%	10.6%	35.0%	20.5%	9.8%					4.9%
A'	総計	934,72	147,600	744,060	51,120	109,180	31,615	980	131,171	7,200	計1397,710 30,913
	一航平均	23,391	39,150	186,015	12,780	27,295	7,904	245	32,792	1,800	7,229
	百分率	6.7%	11.0%	55.5%	3.8%	8.1%	2.3%	—	9.7%	0.5%	2.2%
B'	総計	168,843	162,200	1,109,254	16,580	138,413					計1666,623 71,633
	一航平均	42,136	40,500	277,063	4,145	34,603					17,908
	百分率	10.1%	9.7%	65.7%	0.9%	9.3%					4.3%

(註) 手数料は甲木野 分、焼津4分5丁、清水3分、勝浦5分5丁であるが甲木野を除いて焼津、勝浦は市場手数料の外に仲介人徴収されるものを巨含している。なお他港水揚の場合は船種所屬漁場に対し賦課金1分を使うものとす。

表によると小笠原東海域出漁のものはマグロ自給のため魚釣島近海での操業と比較して餌料費の増加が目立っており全体の20%以上を占めている。又他港根拠のため食糧費は幾分増え1~5%位増加している。これに反し魚釣島漁場を操業の各船は燃油の消費が非常に多く大仲経費の中50%以上を占め小笠原の3.5%と漁場への距離を不ず好資料となっている消耗品は甲板、機関部のものを探して電機具があり之は一年に如何と一定額を積立て不時の故障に備えている。餌料はペンマオ主で1航海150箱程度積込んでいる。上表よりみて両漁場操業による大仲経費は1航海平均では10万円内外小笠原漁場の方が増えているが之は当然のこと考えられる。

(7) 船主負担経費

両漁場を比較して特に激しい変化は見られず小笠原東海域に出漁する場合魚釣高近海出漁に比べて約10万円程度増加しており、主なものは交際費を含む雑費と船体、機関修理でこれは他港を根拠としているため当然のことと見料される。表の各船舶経費欄中上段は漁期中の総計で、中段は航海当たりとなり下段の%は各船舶の計に対する費目毎の割合を示す。

	消耗漁具	船体修理	機関修理	漁具修理	雑修理	備品費	消耗品	保険料	通信	福利	雑費	計
A	126,625	70,755	104,574	768	30,177	16,570	450	72,282		6,170	42,231	478,642
	42,208	23,585	34,858	256	10,059	5,530	150	26,427		2,063	14,744	
	26.4%	14.7%	21.8%	0.15%	6.5%	3.4%	0.05%	16.5%		1.3%	9.2%	100%
B	153,070	7,400	16,445	21,585		13,488		108,170	8,340		14,870	500,338
	31,614	1,480	32,683	4,317		2,697		21,632	1,668		2,974	
	31.8%	1.4%	33.7%	4.3%		2.7%		21.7%	1.6%		2.9%	100%
A'	165,740	44,105	22,817	13,780	31,653	3,968	1,740	9,584		4,480	28,467	326,334
	41,435	11,026	5,704	3,445	7,913	9,92	435	2,396		1,120	7,117	
	50.9%	13.5%	9.0%	4.2%	9.7%	12%	0.6%	2.9%		1.4%	8.8%	100%
B'	848,98	30,640	46,823	62,406		73,740		114,780	7,520		12,100	432,927
	21,224	7,660	11,905	15,601		18,440		28,695	1,880		3,025	
	19.7%	7.3%	10.9%	14.5%		16.4%		26.5%	1.8%		2.9%	100%

消耗漁具： 綿糸、ワイヤー、浮標等で大量に仕込まれるもの。(流失補充、折損作製等)

漁具修理： 延縄糸料、サルカン及綿糸等操業中補充するもの

備品費： 工具類の購入

福利費： 乗品代

保険料： 船員、漁船保険の年間額を期間で割った額と支払額

③ 船主、船員の収益について

漁獲収益及び配分表

船		漁獲高	水揚金額	大仲経費	差引残高	船主配当金	船員取得金	船員	1人当り配当金
A	総計	8,241.3 ^x	4,765.021 ¹⁾	1,477.107 ¹⁾	3,285.914 ¹⁾	1,542.480 ¹⁾	1,743.534 ¹⁾	18人	93,740 ¹⁾
	航海当	2,747.1	1,588.340	493.036	1,095.304	514.160	581.178		31,246
B	総計	9,807.3	6,302.747	1,219.716	5,083.033	2,387.026	2,694.007	18人	149,144
	航海当	1,961.4	1,260.547	843.743	1,016.606	477.805	538.801		29,829
A'	総計	6,801	2,336.818	1,347.311	98,507	465.069	524,438	18	28,200
	航海当	1,700	542,204	366.827	247,377	116.267	131,110		7,050
B'	総計	7,594	4,213,595	1,666,623	2,546,962	1,197,073	1,349,887	18	72,574
	航海当	2,398.5	1,053,396	416,656	636,740	299,268	337,472		18,142.50

船主収益はA船の場合154万円、B船で235万円であり之に反しA船においては漁期中を通じて僅か46万円と同経営者によるA船の一航海分にも当らない。又魚釣島近海出漁の漁船中、上の部に当るB船にしても119万円以小笠原東海域に於ける操業船のうちの中位と思われるA船と比較しても及ばず、航海平均ではそのも割しか得ていない。船主は更にこの収益金より船主負担経費(前頁)を支払い、更に借入資金の返済、総務諸種負担金、船長、棧岡長、局長への割増歩金(0.8%、0.2%、0.05%)を支払うとA船は支払えず、B船は収支相償位と考えられる。

次に船員収益であるがこれも船主収益と同様のことが云え、次表で判明すると思うが差引水揚高の53%を配分され、各船共18人乗組であるので18.6(船長1.2 棧岡長1.2 局長1.2 操舵手1.1 油差1.1 漁夫1 踏夫0.8)で配当するもので実際配当は船主よりの割増歩金を入れて船長2人 棧岡長1.4人、局長1.25人 操舵手1.1人 油差1.1人 踏夫0.8人の率で収益があることになる。

配 当 金 (漁期1~4月の4ヶ月間)

船名	船員配当金	船 長	棧 岡 長	局 長	操舵手油差	漁 夫	踏 夫
A	1,743,534	187,480	131,235	117,175	103,114	93,740	74,992
B	2,694,007	278,288	208,802	186,430	164,055	149,144	119,315
A'	524,438	56,400	39,380	35,250	31,020	28,200	22,560
B'	1,349,889	145,148	101,604	90,718	79,831	72,574	58,059

註： 実際取得金額で当然船主より割増歩金を含む。

船主、船員の配分は魚釣島近海と小笠原東 漁場とも変化なく前者に於ける生鮮餌料の操業は大仲経費の節減に依つてはいるが、労力の消耗に比べて漁獲収益は少なくA船とA'船では一航海と漁期全部の収益が匹敵している状況で、これよりしても小笠原海域出漁が望まれる処である。只考慮に入れなければならないのは地無根拠の時と別に必要外に金銭の使途があるものと思われることであり、この計算は到底不可能である。然し漁収益の多寡は処から大きな問題とはならないと思う。

結 び

以上で比較検討を終るが、対象は漁況に重点を置きず経営収益にした。船荷漁場毎値も漁獲高よりする収益によつて経営が如何に維持されるかに乗約されるものと思う。漁況は後日詳細に取纏めて発表するので表のみで判断して頂くとし、概念的に有利を伝えられる小笠原海域での操業は少い資料ではあつたが、一応数字的に裏付けされたと考えたい。

尚、資料提供の当業者に深く感謝すると共に御批判を依頼する。

29年秋期かじき、まぐろ漁業の 操業成果について

春漁(1~4月)に於いて従来当地延縄船の伝承的漁場であつた魚釣島近海に変わつて、新しく小笠原漁場へピンテウを目的に出漁した船は全船夫々相当な好成績を収めた。この数字的裏付けは指導所日よりVOLⅢ No3で試みたが、更に秋期に於いて30 屯内外の中型延縄船が釜石を根拠として東北漁場(三陸沖)に進出し、最高水揚げ高800万円と云う串木野根拠の70~80 屯級延縄船でも及ばない好漁をして帰港した。

この漁場は戦前には当地延縄船が出漁し相当の成果を収めていた漁場であつて、去る昭和26年5月から10月近当市島平地区の延縄船10 隻程度がこの漁場に出漁したがクロマガロの漁獲少く成果は余り芳しくなかつた、ゆゑ其の後出漁船はなかつたのであるが、近年クロマガロの漁獲が漸次上昇し、東北漁場(三陸沖)では一部郷によつて漁獲されるものもあつて当市本浦、島平地区合わせて22 隻の出漁船を見た。

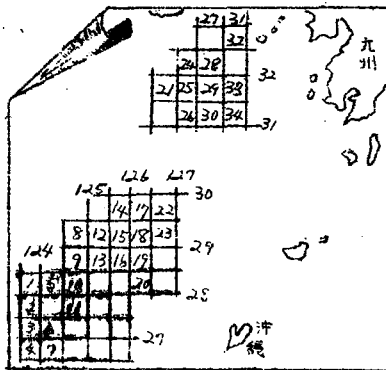
中型船での操業結果が魚価高価な水揚げ地をひかへたととしても地元大型船の操業成果よりよゆうとしたことは清州島漁場を喪失した当地延縄船としては非常に注目すべき華実と思われ、漁協及び各当業者の協力を得てその資料の提供を頼み善悪同休、漁場価値及び操業成果について比較検討してみたい。

(一) 漁場価値

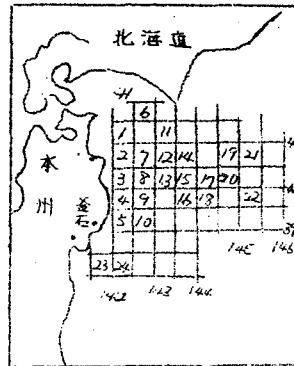
当地延縄船の秋期操業漁場として古くから伝承的なものとして独占操業で可成り成果を収めていた清州漁場は季ラインによつて28年以來締出され、以後業者船独自の試験操業により東支那海と女島近海にその活路を見出して操業を続けて来た。この漁場は串木野より120~450 哩で主漁場は300~450 哩附近に形成される。これに対して三陸沖は非常に接岸しており釜石より20~110 哩附近が主漁場となり遠く出漁しても200 哩程度で沖合で、は余り好漁を見ていない。これは20~30 屯級の中型延縄船には最適な漁場位置となつている。

2) 漁獲物組成と釣獲率

表により判明すると思うが、漁獲物は東支那海女島漁場ではバセウカジキ、シロカ



東支那海女島漁場図



三陸沖漁場図

(1) 樺三〇哩平方)

ジキ、マカジキ、サメが主で殊にサメは組成中56.4%と半分以上を占め、上物はは
 われるカジキ類は43.6%しか占めていない。これに反して三陸沖の組成はサメ類、
 34.8%で、クロマグロ、キハタ、メバチが52.3%、カジキ類12.7%で上物の取獲
 の多いことを示している。

(漁獲物組成表)

漁場	区分	クロマグロ	キハタ	メバチ	マカジキ	メジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハセカジキ	サメ	他	計
三陸沖	本数	565	42	95	59	51	7	50		468		1345
	%	42.1	3.1	7.1	4.4	4.2	0.6	3.7		34.8		100.0
東支那海	本数				292	10	8	629	573	1962		3478
	%				8.4	0.3	0.2	18.2	16.5	56.4		100.0

釣獲率は三陸沖ではクロマグロとサメのみが1.0を示しているのに反し東支那海はバセ
 ウカジキ、シロカジキが1.0内外、サメは2~3の値を示しており、むしろ釣獲率のみ
 では三陸沖が劣っていると云える。

(換算当り漁獲率及び釣100本に対する釣獲率)

漁場	船名	区分	クロマグロ	キハタ	メバチ	マカジキ	メジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハセカジキ	サメ	計
三陸沖	A	漁獲率	3.41	0.25	0.12	0.10	0.87			1.02	2.49	7.91
		釣獲率	0.85	0.06	0.03	0.03	0.09			0.25	1.62	2.99
	B	漁獲率	3.51	0.17	0.73	0.36	0.34	0.06			3.21	8.25
		釣獲率	0.94	0.05	0.19	0.10	0.09	0.02			0.86	2.24
	C	漁獲率	4.19	0.25	0.28	0.28	0.25				1.51	7.06
		釣獲率	1.12	0.07	0.08	0.08	0.07				0.45	1.85
	D	漁獲率	2.11	0.30	0.98	0.60	0.32	0.13			2.92	7.34
		釣獲率	0.53	0.07	0.24	0.15	0.08	0.03			0.73	1.83
東支那海 島	E	漁獲率		0.04		1.08	0.04	0.02	4.31	3.81	10.21	19.32
		釣獲率		0.01		0.32	0.01	0.006	1.27	1.07	3.02	5.73
	E'	漁獲率		0.04		0.69	0.02	0.08	3.02	3.79	5.49	13.12
		釣獲率		0.01		0.22	0.006	0.02	1.75	1.19	1.72	4.10
	F	漁獲率				1.38	0.07	0.07	3.40	2.27	17.08	24.20
		釣獲率				0.28	0.01	0.01	0.72	0.45	3.62	5.13
	F'	漁獲率				3.60	0.10		2.77	2.53	10.32	17.32
		釣獲率				0.97	0.003		0.74	0.68	2.97	5.19

三陸沖漁別漁獲率 (前頁漁場図と照合)

月別	漁播番号	旬別	操回架数	釣取	クロマグロ		メバチ		キハダ		マカジキ		メカジキ		クロカジキ		サメ		計	
					尾	釣獲率	尾	釣獲率	尾	釣獲率	尾	釣獲率	尾	釣獲率	尾	釣獲率	尾	釣獲率	尾	釣獲率
8	7	下	4	1,600	20	1.25											27	1.67	47	2.94
	8	上	5	2,000	4	0.20											6	0.30	10	0.50
	11	下	2	800	11	1.38					1	0.13					17	2.13	29	3.63
	12	下	6	2,400	13	0.54	3	0.13									19	0.79	35	1.46
58	上	1	400	2	0.50	1	0.25						1	0.25	4	1.00	8	2.00		
	中	3	1,200	4	0.33	3	0.25	1	0.08	8	0.67	1	0.08	1	0.08	20	1.67	38	3.17	
	計	4	1,600	6	0.38	4	0.25	1	0.06	8	0.50	1	0.06	2	0.13	24	1.50	46	2.87	
	中	2	800	5	0.63					8	1.00			4	0.50	12	1.50	29	3.63	
65	下	1	400							1	0.25								1	0.25
	計	3	1,200	5	0.42					9	0.75			4	0.33	12	1.00	30	2.50	
9	上	3	1,200	22	1.83			2	0.17								30	2.50	54	4.50
	下	2	800	9	1.13	7	0.88					1	0.13	9	1.13	1	0.13	18	2.25	
	計	5	2,000	31	1.55	7	0.35	2	0.10			1	0.05	9	0.45	31	1.55	72	3.60	
	3	甲	2	800	2	0.25			2	0.25					1	0.13	1	0.13	6	0.75
1	4	上	1	400	2	0.50	1	0.25							21	5.25	18	4.50	21	5.25
	上	2	800	18	2.25	1	0.13	1	0.13	1	0.13	1	0.13			3	0.38	25	3.13	
	中	1	400	2	0.50							1	0.25			5	1.25	8	2.00	
	下	8	3,200	19	0.59	9	0.28	7	0.22	3	0.09	1	0.03			6	0.19	45	1.41	
6	計	11	4,400	39	0.89	10	0.23	8	0.18	4	0.09	3	0.07			14	0.32	78	1.77	
	中	1	400	1	0.25			1	0.25	1	0.25					1	0.25	4	1.00	
7	中	5	2,000	26	1.30	1	0.05	1	0.25							4	0.20	32	1.60	
	下	1	400					2	0.50	1	0.25					2	0.50	5	1.25	
	計	6	2,400	26	1.08	1	0.04	3	0.13	1	0.04					6	0.25	37	1.54	
8	上	3	1,600	25	1.56					3	0.19	1	0.06			12	0.75	41	2.56	

- 122 -

9	12	上	2	800	6	0.75									5	0.63	11	1.38		
	13	下	1	400	1	0.25	3	0.75							3	0.75	7	1.75		
	17	中	1	400			2	0.50			2	0.50			4	1.00	13	3.25		
		下	1	400			1	0.25			2	0.50					3	0.75		
		計	2	800			3	0.38			4	0.50			4	0.50	16	2.00		
	14	下	1	400							1	0.25			10	2.50	11	2.75		
	16	上	1	400	1	0.25											1	0.25		
19	下	2	800	15	1.88	1	0.13			2	0.25	2	0.25			20	2.50			
10	20	上	1	400	7	1.75					1	0.25	1	0.25		5	1.25	14	3.50	
		中	2	800	1	0.13					5	0.63	1	0.03	1	0.03	10	1.25	26	3.25
		計	3	1,200	8	0.67	8	0.67			6	0.58	2	0.17	1	0.08	40	3.33	15	1.25
	21	下	1	400	4	1.00					1	0.25					5	1.25		
22	中	1	400			1	0.25									1	0.25			
10	4	上	1	400	2	0.50			1	0.25	1	0.25					4	1.00		
		中	2	800	2	0.25	3	0.38	2	0.25							7	0.88		
		計	3	1,200	4	0.33	3	0.25	3	0.25	1	0.08					11	0.92		
	5	中	3	1,200	6	0.50			2	0.17	1	0.83					9	0.75		
		下	1	400	3	0.75							1	0.25		2	0.50	8	1.50	
	7	計	4	1,600	9	0.56			2	0.13	1	0.06	1	0.06		2	0.13	15	0.94	
		上	2	800					1	0.13	1	0.13	1	0.13		2	0.25	5	0.63	
10	9	上	6	2,400	57	2.33	8	0.33	3	0.13	6	0.25	4	0.17		10	0.42	88	3.67	
		中	8	3,200	24	0.75	8	0.25	3	0.09			7	0.22		5	0.16	47	1.47	
		下	1	400									1	0.25		1	0.25	3	0.50	
	計	15	6,000	81	1.25	16	0.27	6	0.10	6	0.10	12	0.20		17	0.28	138	2.31		
10	中	下	3	1,200	11	0.92									9	0.75	20	1.67		
		計	4	1,600	12	0.75							2	0.13		4	0.25	18	1.13	
	計	7	3,800	23	0.61							2	0.05		13	0.34	38	1.00		

月別	漁番 場号	旬別	操回 業数	釣 数	クロマクロ		メバチ		キハダ		マカジキ		メカジキ		クロカジキ		サメ		計		
					尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾
10月	14	上	1	400	1	0.25											2	0.50	3	0.75	
	17	上	2	800	2	0.25					1	0.13					14	1.75	17	2.15	
11月	4	上	2	800	10	1.25						1	0.13			2	0.25	13	1.65		
	3	上	1	400								1	0.25			3	0.75	4	1.00		
	9	上	1	400								1	0.25			10	2.50	11	2.75		
	23	上	1	400								5	1.25			5	1.25	10	2.50		
	24	上	2	800	7	0.88										4	0.50	11	1.38		
	25	上	1	400			2	0.50												2	0.50
		中	1	400			1	0.25												1	0.25
下		2	800			3	0.38												3	0.38	
26	中	1	400			2	0.50												2	0.50	

124

(東支那海女島近海漁場別漁獲率)

月別	漁番 場号	旬別	操回 業数	釣 数	キハダ		マカジキ		メカジキ		クロカジキ		シロカジキ		バロウカジキ		サメ		計	
					尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率
9月	27	中	1	400									7	1.75			5	1.25	12	3.00
	31	中	1	400									4	1.00			9	2.25	13	3.25
	33	下	1	400													5	1.25	5	1.25
	34	下	2	800						4	0.50			1	0.13		52	6.50	57	7.12
	32	中	1	300			1	0.33					11	3.68			6	2.00	18	6.00
		下	2	980			5	0.51					24	2.45			14	1.35	43	4.38
		計	3	1,280			6	0.45					35	2.73			20	1.56	61	4.76
	1	下	1	400			2	0.50					2	0.50			22	5.50	26	6.50
2	下	1	426					1	0.21					3	0.63	2	0.42	6	1.26	

月	5	下	2	960			7	073	1	010			2	021	1	010	5	604	68	708	
		上	8	3410			29	085					13	038	2	006	123	361	167	490	
		計	10	4370			36	082	1	002			15	035	3	007	180	412	235	538	
	8	下	3	980			8	082	1	010			14	143			38	388	61	622	
	11	下	1	452											5	111	4	089	9	199	
	12	下	3	1100			10	091					9	082	2	002	12	109	33	300	
	15	上	4	1750			4	023					13	074	3	017	25	143	45	257	
10	33	下	1	400													5	125	5	125	
	34	下	2	800							4	050			1	013	42	525	47	588	
	3	下	3	1320	1	008							3	023	16	121	40	303	60	455	
	6	下	4	1500			1	007					3	020	34	227	41	273	79	527	
		上	1	476														4	084	4	084
	9	下	4	1700	2	012	1	006					12	071	1	006	40	235	56	329	
		計	5	2176	2	009	1	005					12	055	1	005	44	202	60	275	
	10	下	1	400			2	050					10	250	1	025	7	175	20	500	
	11	下	2	800			1	013	1	013			3	035	18	225	9	113	32	400	
		上	5	2048			5	024					16	078	3	015	36	176	60	273	
12	下	2	800			2	025					5	063	2	025	11	138	20	250		
	計	7	2848			7	025					21	074	5	018	47	165	80	281		
13	上	2	380			3	079					2	053			4	105	9	231		
14	上	1	476									3	063						3	063	
月		上	3	1130			4	035					21	186	8	071	16	142	49	433	
	15	下	1	400									4	100	1	025	2	050	7	175	
		計	4	1530			4	026					25	163	9	059	18	118	56	366	
16	上	1	400			1	025					8	150			3	075	10	250		
	下	5	1880	1	007	9	065					38	275	2	015	43	311	93	671		

月別	漁場号	旬別	操回 業数	釣 数	キハダ		マカジキ		メカジキ		クロカジキ		シロカジキ		バロウカジキ		サメ		計	
					尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率	尾	率
10	16	計	6	2280	1	0.04	10	0.44					44	1.93	2	0.09	46	2.01	103	4.52
	17	中	1	210			4	1.90					1	0.48			3	1.43	4	1.90
	18	上	2	840			3	0.36					29	3.45	8	0.95	26	3.10	66	7.86
		中	7	2600			6	0.23					54	2.08	24	0.92	34	1.31	118	4.54
		下	1	320					1	0.31			7	2.19			4	1.25	12	3.75
		計	10	3760			9	0.24	1	0.03			90	2.39	32	0.85	64	1.70	196	5.21
	22	中	4	1650			7	0.42					45	2.73	7	0.42	11	0.67	70	4.24
	23	中	2	950			12	1.26	1	0.11			22	2.31	8	0.84	18	1.90	61	6.42
	21	下	1	400					2	0.50							23	5.75	25	6.25
	24	下	1	400			4	1.00									4	1.00	8	2.00
25	下	1	550			24	4.36					11	4.00			39	7.09	74	1.35	
11	上	1	400			1	0.25									4	1.00	5	1.25	
	下	3	1430			20	1.40	1	0.07			6	0.42			129	9.02	156	10.90	
	計	4	1830			21	1.15	1	0.05			6	0.33			133	7.27	161	3.81	
	28	下	1	400													2	0.50	2	0.50
29	下	3	980			9	0.92					1	0.10			19	1.94	29	2.96	
30	上	1	400									1	0.25			4	1.00	5	1.25	
4	上	1	500											6	1.20	4	0.80	10	2.00	
6	上	2	940									2	0.21	8	0.85	6	0.64	16	1.70	
7	上	1	250											3	1.20	1	0.40	4	1.60	
9	上	2	800			1	0.13					2	0.25			40	5.00	43	5.38	
16	上	3	1100			1	0.09					1	0.09	34	3.09	11	1.00	47	4.27	
	中	4	4230			15	3.55					38	0.90	117	2.77	65	1.54	235	5.56	
	計	7	5330			16	0.30					39	0.73	151	2.83	76	1.43	282	5.28	

月	19	中	9	3360			10	0.30				44	131	101	301	94	290	249	741
		下	1	480			2	0.42				4	0.83	12	250	4	0.83	22	459
		計	10	3840			12	0.31				48	1.25	113	294	98	255	271	708
	18	中	2	960			2	0.21				4	0.42	18	188	41	427	65	677
		下	1	480								4	0.83	8	167	3	0.63	15	313
		計	3	1440			2	0.14				8	0.56	26	181	44	3.05	80	5.56
20	中	1	400			1	0.25						7	1.75	10	2.50	18	4.50	
13	中	1	500			4	0.80				7	1.40	12	2.40	10	2.00	33	6.60	

(註) 尾: 漁獲尾数 率: 釣100本に対する釣獲率

(調査船)

根拠地	船名	尾数	馬力	乗組員	試備	操業			一般平均打漁	総漁獲量
						期間	日数	航海取		
釜石	A	38.5	110	14人	無線機	8.16~11.12	49	7	1.210.9	8.476.8 ^x
	B	26.1	80	15	"	8.2~11.9	47	7	1.030.3	7.212.3
	C	30.9	75	14	"	8.23~11.3	32	7	744.8	5.213.2
	D	28.7	55	15	"	8.11~11.12	47	7	850.3	5.952.0
串木野	E	53.7	100	18	"	9.7~12.10	49	4	3.327.2	13.408.7
	E'	50.9	100	16	"	9.23~12.12	51	4	2.559.1	10.236.6
	F	61.2	150	18	無線機、方深、籠深	8.29~11.18	45	4	2.490.3	9.901.2
	F'	61.4	150	18	"	9.21~12.6	40	4	1.987.9	7.951.8

従来、三陸沖の北部がマグロ、カジキの洄游北限と云われ地域的にみて比較的沿岸水地にクロマグロが多く、金華山沖合はマカジキを主とするカジキ類の漁獲が見られ、200 哩以上の沖合は全般的にわたってマカジキの漁獲が多いといわれメバチの分布は多少沖合に多くなる傾向がある。

この漁場の主漁獲物はクロマグロであり、季節的に初夏に初まる漁は漸次南部から北上し晩秋まで漁獲が見られる。今回出漁した当地延縄船は中型船のため殆んどが沿岸のクロマグロを目的としており、一時沖合200 哩迄進出したが漁は苦しくなく再び沿岸操業に移っている。又、操業漁場を26 年と比較すると、金華山附近では殆んど操業せず大部分が非常に接近して操業しクロマグロを漁獲している。釣獲率はクロマグロのみ26 年より上廻っており、局所的には前表にもあるとおり1 回に33 本を漁獲しているが他魚種は大差ない。又クロマグロの体重は平均30 ㎏で26 年の20 ㎏内外より10 ㎏程度大きくなっており、26 年は大型魚は散発的にしか漁獲されていなかったことから、本年は洄游量、漁獲量が多くなっていることが判明する。この海域のクロマグロは26 年の出漁では釜石沖合より北方のものは当初18~19 ㎏、9 月下旬頃から25 ㎏内外、更に30 ㎏内外と大きくなるのが特徴であったが、今年は大体同じ傾向を辿っており、終漁期には40 ㎏程度の大きなものも漁獲されている。

漁場価値として漁場位置、漁獲率から判断するのが妥当であらうが、漁獲率に於いて春漁と異なり三陸沖漁場は貫数は落ちるが水揚金額において上廻っているため、この場合漁船規模の相違等も含め、魚価の変動、出漁に要する一切の経費、収益等から総合的なもので判断しようと思う。

なお前頁出漁船について漁期は両漁場とも同一期間、日数、航路数を目的に抜き出したため、12 月の1 航海 ~ 2 航海分が除いている。

(二) 操 業 成 果

1) 魚 価

三陸沖操業船の水揚地釜石と当串木野の魚価について漁期中の値段を表示した。これを見ると春漁の場合と同じことが云われる。即ちマグロ類は釜石の方が高く、キハダと比較すると串木野の1.6 倍となっている。カジキ類は殆んど同じで串木野の方が少し高値を示している。然し三陸沖操業船の漁獲物の主体はクロマグロであり水揚金額中の8割程度を占めるためこの魚価の高低は大きく響き、操業結果漁獲量の少ない割に水揚金額において串木野根拠船のそれを上廻ったことは、漁獲魚種を別としても魚価が漁業に於いて非常に重要な要素を占める一因とならう。

(100 隻当り)

地名 \ 魚種	クロマグロ	キハダ	メバチ	マカジキ	メカジキ	クロカジキ	シロカジキ	ハシロカジキ	サメ
釜石	26~250	41~100	41~83	23~110	23~73	27~28			5~22
串木野		15~64		38~95	21~62	26~84	31~88	24~78	10~34

2) 水揚高

表中A.B船は三陸沖漁業船中オノ位、C船は中位、Dは下位であり、Eは東支那海、女島漁場採業船中首位を争う船でE.Fは中位、F'は中位の下の部に入る。この表と前表より先づ判明することは漁獲高が三陸沖は非常に少い割に水揚金額は上廻っていることと漁獲高の少いのは漁船規模が小さく、漁場も近く航海日数が少なかったことにもよるが、漁船規模からみて思われた漁場と思はれる。

	船名	一航回当漁獲	水揚金額
金	A	1,163,943	8,147,704
	B	834,611	5,842,279
	C	623,709	4,365,961
石	D	573,619	4,015,333
	E	1,546,651	6,186,606
	E'	1,110,489	4,441,958
串木野	F	990,758	3,863,034
	F'	921,984	3,687,738

20~30 吨級の漁船では東支那海の採業はその成果は微々たるものであり。これらを考慮した場合漁価も含めて、三陸沖漁場は、今年程度の漁争ならば中型船にとって無二の好漁場として注目すべきである。参考までに同漁場における26年の4ヶ月間の水揚は上位で300万円、普通200~250万円であった。

3) 経費

上段 総額
中段 航海日
下段 %

① 大仲経費

根拠	船名	手数料	水	燃油代	餌料	主食	副食	消耗品	通信費	修理費	雑費	漁具	計
釜石根拠船	A	407,386	115,616	420,005	38,659	224,163	138,704	9,000			163,445		1,516,952
		55,340	16,517	60,000	5,523	32,024	18,400	1,300			23,351		216,712
		26.7%	7.6%	27.6%	2.5%	14.5%	9.1%	1.3%			10.7%		100%
	B	272,119	96,350	428,420	62,222	242,408	25,910	7,200			128,115		1,293,141
		41,731	13,764	61,203	8,960	34,631	3,701	1,030			18,302		183,306
		22.6%	7.6%	33.5%	4.8%	18.9%	1.9%	0.6%			10.1%		100%
	C	207,876	122,885	341,846	40,934	149,049	22,920	7,200			91,960		984,690
		26,839	17,555	48,835	5,848	21,293	3,274	1,030			13,137		140,667
		21%	12.5%	35%	4.1%	15.1%	2.3%	0.7%			9.3%		100%
	D	254,163	152,613	577,311	64,303	317,012	40,277	7,200			166,167		1,579,073
		36,309	21,802	82,473	9,200	45,287	5,857	1,030			23,452		225,592
		16.2%	9.6%	36.5%	4.1%	20.1%	2.5%	0.5%			10.5%		100%
串木野根拠船	E	293,048	225,400	682,675	106,310	105,112	1,085,1	47,043	7,200	13,365	27,531		1,618,955
		75,762	56,350	170,224	26,577	26,298	27,713	11,761	1,800	3,341	6,883		404,687
		18.1	13.9	42.1	6.5	6.5	6.8	2.9	0.5	0.9	1.7		100%
	E'	178,277	157,000	503,150	111,550	79,220	60,497	21,210	7,438		47,053		1,165,395
		44,569	39,250	125,787	27,887	19,805	15,124	5,302	1,809		11,763		291,349
		15.2	13.5	43.0	7.4	6.7	5.0	2.4	0.4		4.4		100%

船名	手数料	米	燃油代	餌料	王食	副食	消耗品	通信費	修理費	雑費	漁具	計
串木野根根拠地	164,446	171,000	138,386	108,370	114,790	47,203	80,147	7,200		39,676		1,471,218
	41,111	42,750	184,596	27,092	28,697	11,801	20,037	1,800		9,919		367,804
	11.4	11.6	50.2	24	7.6	3.4	5.4	0.3		2.7		100%
F	153,014	162,800	679,482	93,875	97,050	49,101	39,918	9,000		12,951	21,245	1,319,436
	38,253	40,950	169,870	23,469	24,262	12,275	9,979	2,250		3,237	5,311	329,859
	11.6	12.4	51.6	7.1	7.3	3.7	3.0	0.7		0.9	1.7	100%

費目内訳

餌料代(餌用の米、糠、ト口稻、冷蔵冷凍代、運搬費を含む)

消耗品(漁具中サバ釣道具、引縄具、横綱部、甲板部、浜線棧、電気関係の消耗的物品を含む)

雑費(総雑費の外、炊事道具の補充、医薬費、救助費、修繕料を含む各石出漁船は巨布紙、鮮魚箱をも含む)

両漁場出漁船の漁船規模が相違するにかかわらず殆んど変化がない。この原因として雑費が三陸沖出漁船は全体の約10%を占め、更に販売手数料20%以上で、地元船と比較して雑費で5~10倍、手数料は50%から90%増となっている。又餌料費は両漁場とも活サバを使用しているため釣数、操業日数とも少ない三陸沖出漁船の方が約30~50%減少している。更に他港を根拠としているため雑費と共に食糧費(飲料、茶菓子を含む)が40~70%増加している。又三陸沖漁場は非常に接岸していることは燃油代の消費状況からも窺知出来る。
なお、手数料については釜石水揚5分串木野水揚4分であり水揚金額の多いことから当然地元船より多くなる。

ロ) 船主負担経費

この経費も大仲と同じ傾向を示して、両漁場出漁船の船主とも同様に高い支出が見られる。EとE'船及びFとF'船とは夫々同一船主の所有船であり、F、F'は漁協自営船である。

船名	消耗漁具	船体修理	棧明修理	船修理	備品費	消耗品	雑費	保険料	運賃	返済金	公課	計
釜石	68,063	14,709	12,777	28,337		13,420	324,837	25,400	5,730	93,571	23,534	610,449
	7,723	2,101	1,825	4,048		1,917	46,405	3,634	818	12,370	3,365	87,207
	11.3%	2.4%	2.1%	4.6%		2.2%	53.2%	4.2%	0.7%	15.3%	3.8%	100%
根拠地	111,000		380,235			177,324	92,176	80,050	4,155	38,585	57,137	740,712
	15,857		54,319			25,339	13,168	11,437	593	5,512	8,162	134,387
	11.8		40.4			18.9	9.8	8.5	0.4	4.1	6.1	100%
根拠地	61,077	97,635	74,407			34,856	74,727	24,140	13,998	83,360	30,000	474,094
	8,725	13,748	10,629			4,979	10,674	3,448	1,985	11,908	4,286	70,585
	12.3	19.8	15.1			7.0	15.1	4.9	2.8	16.7	6.1	100%
船	342,092	129,829	84,463	68,000	28,605	6,150	118,431		16,064	162,426	62,900	1,016,460
	48,870	18,547	12,066	9,428	4,086	878	16,919		2,995	23,204	8,986	145,285
	39.6	12.8	8.3	6.5	2.8	0.7	11.6		1.6	15.9	6.2	100%

区別	船名	漁具	船体修理	棧橋修理	船修理	備品費	燃料費	賃賃	保険料	通信事務	送利	税金	公取	計
水揚	E	172,602	31,911		40,566		21,101	159,637	47,940	2,949	10,000	175,000	661,608	
		43,150	7,978		10,124		5,200	39,909	11,985	737	2,500	43,750	165,441	
		26.1%	48.9%		6.2%		3.4%	24.1%	7.2%	0.4%	1.5%	26.5%	100%	
木野	E	188,887	66,686		66,300	25,300	26,066	159,637	47,740	21,949	10,000	175,000	768,765	
		47,222	16,671		16,575	6,325	6,515	39,909	11,985	737	2,500	43,750	192,191	
		24.5%	8.7%		8.6%	3.3%	3.4%	20.8%	6.2%	0.4%	1.3%	23.8%	100%	
根拠	F	234,165	52,386	57,577	37,006	15,383	17,720	84,841	272,083		269,500		1,040,691	
		58,541	13,076	14,399	9,251	3,846	4,430	21,211	68,023		67,375		260,175	
		22.6	5.1	5.5	3.5	1.4	1.6	8.1	26.2		26.0		100%	
船	F	115,131	152,815	132,237	71,887	26,085	60,312	26,756	244,222		269,500		1,158,649	
		43,983	38,204	33,060	17,847	6,521	15,078	6,739	61,055		67,375		389,662	
		15.2	19.2	11.4	6.2	2.2	5.2	2.3	21.1		23.2		100%	

釜石根拠船は水野木野根拠船以上に雑費が多く、冗費的な支出もあつたようであるが、これは漁船現棟を度外視しても、他港を根拠として水揚する場合は自然経費も増加する以上肯定出来る。表中A船の雑費が他船に比べて非常に多く経費の53%を占めているが、この内訳は純雑費の外に福利厚生費、雇賃、負担金、事務員給料等が含まれていると、出漁船中第1位のため大漁祝の費用等含まれている。

費目中消耗漁具代は罾染料、綿糸、ワイヤー等である。棧橋修理は大仲経費では修理しないので大部分の修理は船主負担となる。備品費には、帆布、漁業灯、スパナ類、保険料は漁船、船員保険料である。返済金利息は借入金の返済、株買の返済(多数は費目のみ)及び之れに対する利子で各船によって内容が異なるため率は夫々変化が大きくなっている。雑費は前記した福利厚生費、雇賃、負担金、検査手数料をはじめ、茶菓子、作業服代、日当、祝時の食費、持待費、交際費、旅費等である。

又釜石根拠船中修理費の大きいB、D船は何れも老朽船の部に入る。

船主負担としてはこの外に決算期には絶代として2代5年の積立と船長及び1年以上経験を有する無線通信士に夫々0.6代、0.05代の支給が義務づけられる。

3) 船主、船員の収益

漁獲収益及び配分表

区別	船名		水揚金額	大仲経費	差引残額	船主取得金	船員取得金	人数	1代配当金
釜石	A	総額	8,147,704	1,516,782	6,630,722	3,116,439	3,514,283	14	234,285
		航海当	1,163,743	216,711	947,246	445,205	502,040		33,490
木野	B	総額	5,842,279	1,283,141	4,559,138	2,142,795	2,416,343	15	151,021
		航海当	834,611	183,306	651,305	306,113	345,206		21,574
漁船	C	総額	4,365,761	984,679	3,381,291	1,587,217	1,792,074	14	119,472
		航海当	623,709	140,667	483,041	227,031	256,010		17,067

区別	船名		水揚金	大仲経費	差引残額	船主取得金	船員取得金	人数	1代配当金
	P	総額	4,015,333	1,579,073	2,436,260	1,145,042	1,291,218	15	80,701
		航海当	573,619	225,582	348,037	163,577	184,459		11,530
地	E	総額	6,186,606	1,618,755	4,467,851	2,099,890	2,367,961	18	123,925
		航海当	1,546,651	404,688	1,141,963	524,972	591,990		30,981
元	E'	総額	4,441,958	1,165,395	3,276,563	1,539,985	1,736,578	16	101,553
		航海当	1,110,489	291,344	819,141	384,996	434,144		25,388
船	F	総額	3,863,034	1,471,218	2,391,816	1,195,908	1,195,908	18	62,613
		航海当	990,758	367,804	597,954	298,977	298,977		15,653
船	F'	総額	3,687,938	1,319,436	2,368,502	1,184,251	1,184,251	18	62,003
		航海当	921,984	329,859	529,125	296,062	296,062		15,501

配分率、設備完了船（無線機、方向探知機又は領根の一方、ローラー）

船主 50% 船員 50% F, F' 船

設備未完了船（但し無線機のみ設置）

船主 47% 船員 53% A, B, C, D, E, E' 船

何れも漁獲総高より船員組合維持費（手取額の0.05%）と大仲経費を差引いた残額の配分である。

船主取得金だけの比較は妥当でないので次表で支払義務額を支払った純収益に近いもので検討してみるに、釜石出漁船は下位までは黒字となっているのに反し、地元振出船は中位の下の部に属する船より支出過剰となり前記した返済金及び利子、総代の支払い

船主収益

船名	船主取得額	出漁経費	総代	船長局長代	差引残額
A	3,116,439	610,449	585,712	152,285	1,767,993
B	2,142,795	940,712	377,552	98,164	726,367
C	1,589,217	494,094	298,680	77,657	718,986
D	1,145,042	1,016,460	—	52,456	76,122
E	2,099,890	661,606	309,812	80,551	1,047,921
E'	1,539,985	768,765	253,882	60,009	451,329
F	1,195,908	1,040,691	156,532	40,698	(-) 42,013
F'	1,184,251	1,158,649	155,007	40,302	(-) 169,707

は完済出来ないことになる。このことは釜石出漁船は漁船規模で劣るにかかわらず漁場魚価、漁獲物に恵まれ予期しない成果を上げたことになり、A船では4ヶ月間の操業で1年間の水揚をし、船主収益は1年分を遥るかに超過しており、中位迄の船は1年分の収益を揚げたことになる。これに反して地元船は首征に近い船のみがこれと同じ状況である。又26年の出漁収益と比較すると当時の船主取得金は漁期4ヶ月間で約90万円であるが、本年はその2、3倍近い収益になっている。なお調査船外に操業期間の短

配 当 表

区別	船名	船賃配当金	船 長	機 関 長	局 長	操 機 手 油 差	漁 夫	見 習 漁 夫
釜	A	3,514,283	327,979	327,979	281,141	257,713	234,285	210,857
			468,571		292,855			
B	2,416,343	211,429	211,429	181,225	166,123	151,021	135,919	
		302,042		188,776				
C	1,792,084	167,260	167,260	143,366	131,419	119,472	107,525	
		238,944		149,339				
D	1,291,218	112,981	112,981	96,847	88,771	80,701	72,631	
		161,402		100,852				
E	2,367,961	173,495	173,495	148,109	136,317	123,925	111,533	
		247,850		158,905				
E'	1,736,578	142,174	142,174	121,863	111,708	101,553	91,398	
		203,106		126,941				
F	1,195,908	87,658	87,658	85,135	68,874	62,613	56,352	
		125,226		88,266				
F'	1,184,251	86,804	86,804	74,403	68,203	62,003	55,803	
		124,006		77,503				

船長兼漁撈長 1.4代 機関長 1.4代 局長 1.2代 操機手油差 1.1代
 見習 0.9~0.8代 釜石出漁船は操機手を定めない。

小い船が数隻ありこれらの船主収益は支出過剰の傾向があるが、これは操業期間に於いて比較対照の範疇に入らないので考慮の必要はないであろう。

配当率は上表の如くで、釜石出漁船の上中位と地元船の上、中位と比較すると前者が2~10割増となつて、C船とE船と匹敵する配当率を示している。これは本揚金額に於いて釜石出漁船が優つていることから当然で又船員にとって設備未完了船の方が配分が良くなるため更に配当は増加する訳である。只他港を根拠とする場合地元根拠以上に支出が多くなつてゐる。1ヶ月家族の生活費は10,000~15,000円でこれを前借りしてゐるのでF,F船ではこれを精算すると船賃配当計算の際は取得する金額は幹部を除いて殆んど微々たるものであるのに反し釜石出漁船は中位程度迄45万円以上の支給を受けD級船でも可成りの支給があつたということからその漁(水揚額)の如何が知り得る。なおこの船賃配当金についても26年の出漁時と比較すると、当時が1代当49,000円程度であつたことから、本年はA船で約5倍弱、B船で4倍弱、下位のD船に於いても2倍近くの配当金を得ていることになる。なお本年の配当率は26年の配当率より1代当りが低下してゐることから実質は相当な増収になつてゐるものと思う。

結 び

三陸沖、東支那海両漁場に出漁し大体同じ期間操業した同程度の延縄船を天々4隻抽出して、その操業結果から漁場価値について判断しようと試みました。漁場価値は前述した如く、漁獲高よりの収益が経費を差引いて如何様になるかによっても検討出来ると思ひ。前記各項目に於つて比較した結果一応三陸沖漁場がよいように見えます。然し船規模によって天々遊した漁場があると思われ中型船には三陸沖での操業は見逃し得いものもあり、又大型船には倉釣島北東沖を中心とする漁場は、秋漁の漁場として尚拓して日も浅く、時期的にバセウ、シロカジキの好漁をみる処から捨て難い存在となつていす。果して中型船の操業で好成果を収めた三陸沖が大型船をもつて操業しても同様の結果を得られるかは漁場の性格が判きりしないので断定出来なひ。三陸沖の漁況は好不況が一年交替とも云われているので、今后この様な好況が例年続くとは考えられなひが万一統くものとするならば、本手の漁況からみて延縄船の年間操業計画にも従来の伝統的漁場を固守することなく大きく改革されるであらう。この意味で中型船の操業は有意義であつたと思ふ。

尚調査に當つて資料を提供して協力下さつた当業者の方々に感謝します。